



414  
A. 833  
4



秋派才一兵ノ電書

馬尼刺及香港派遣才十回報告

米軍才二次輸送兵八十六日ニ着シタル「チャイナ」号及  
十七日ニ着シタル「スイレン」号「フロレン」及「セゾトル」(前回は「オハヨ」)  
千五百人ヲ割載シ未レリ而シテ十九日午前迄ハ未ダ上  
陸ヲ為サリシ米軍ニ從軍視察ヲ依頼ノ為ノカビ  
テニ赴キタル時澤砲兵大尉ハ才一次輸送ニシテ到着ノ  
少將「アングロ」ンニ面會シタリトテ其云フ所ヲ聞クニ才  
二次輸送ノ陸軍ハ上陸ヲ急ガス才三次若クハゴダット  
將軍着ヲ待テ動カントスルモノ、如シト然レモ不日對  
岸ニ野營演習ヲ為ス豫定ニ付キ其節ハ時澤  
大尉ノ未觀ヲ承諾スベシト云ヘル由  
思フニカビラレ造船廠内ニハ最早才數ノ兵ヲ入ルノ餘





地モナカル可ク自ラ野營ノ必要ヲ感スルナラシキ又彼  
レノ対岸ト称セバガボテ河附近ナルベク十九日朝ヨリボストン  
等ノ同地附近ニ碇泊スル等ノ舉動ニ徴シテモ之ヲ  
推知スルヲ得一ニ

一軍艦退速入港ノ際持来リタル新聞紙等ニキエバニ於  
ケル西國艦隊全滅及フヤリツビニ群島ニ向ヒタル西國艦  
隊呼戻シ等ノコトアルニ係ラスヨミラニ於テ西人ハ應援艦  
隊及陸軍ノ到着ハ今日ノ内ニシテ聲言シ十八日夜群  
島總督オオグスケニハ使ヲ我領事館ニ送りヨルニ  
電報ハ各スベカラサルヲ説キ現ニ浪速ノ便ニテ達シタル報  
ニ據テ軍ノ到達ス可キ事實ヲ確取シタリト申越セリト云フ  
十九日日本艦ヲヨミラヲ出タセルト云キ反徒ノ旗幟ヲ  
掲ケタル小汽艇本艦ニ奔リ吳諾ヲ能クスルノ土人（譯者）

一名本官ニ面會セシメテ本官依テ之ヲ引見セシメ彼レハ  
ヨミラタルアギルドノ使者ナリ者ヲ陳ベ且ツ同伴ノ一人ヲ  
香港遣便乗セシメラシメテ請フ依テ本官ハ之ヲ承諾  
スル能ハサル者ヲ陳ベ外國人ニシテ是ハ帝國軍艦ニ便  
乗セシメザル可カラルモノアル場合ナキニ決ビキモ斯クノ如キ  
場合ニハ必ス帝國領事ノ請亦及ヒ照会ヲ要ス可キ  
モノナル旨ヲ告ケ退艦セシメタリ聞ク慮ニ依ルニ此者ハアギ  
ルドノ部下ニシテ外交ノ事ニ當ルモノハ所謂外務大臣  
某ノ允可シト云フ

一七月初旬ヨリソック湾ニ在ル獨國軍艦ノ舉動及米艦ヲ  
レイ及ヨシボドニ圍スル消息ハ同日十三日頃ノ香港新  
聞ニ記スル所事實ニシテ此時米艦ニ一千人ノ反徒便  
乗セシメタリト云フ其後米艦ヲクワックヨリ獨艦ヲ停止



セシノシ高ノ砲聲ニキリト云フ説アレモヨシヲ在泊中此事ヲ聞クヲ得ザリシ儘ニオレ回報告ニ記スル協援問題等ニ徴スルモ米獨艦船ノ間ニ多少ノ衝突アリシハ疑ヲ容レリル所アリト云フ

一本月七日ヨリ碇向中佛國艦隊司令官ヨリ同國々祭日ノ通知ヲ得タルニ依リ午前八時ヨリ日没迄滿艦飾ヲ為シ正午二十一發ノ禮砲ヲ施行ス(前報告ニ補入漏ル付注ニ報失ス)

一前回報告後ヨリ出發迄ニ於ケル状況記事左ノ如シ  
十七日午前十時十分 數隻ノ汽船一隻ヨカビテ入港

午後一時

一曲又ノ友徒汽船ライター一隻ヲ曳キ  
ブラボン附近ヨリ出テ三時ヨカビテ入ル

四時

浪速入港

五時 ヨンド方面ニ銃声ヲ聞ク

七月十八日午前四時ヨリヨカビテ入港

午後四時五分 市街東方ニ當リ火箭ノ揚

ルヲ見ルニ五時時々銃砲声ヲ聞ク土村頃マム

明白香港ニ向ケ出帆ニ付郵便物依托ニ應ス

ル者ヲ各外國軍艦通知ス

七月十九日午前五時ヨリ六時頃ニ到ル間サエタチ方面ニ當

リ砲銃声ヲ聞ク

七時二十分 米艦ボストンヨボラ河ノ沖ニ来リ投錨陸

軍兵上陸準備ヲシテコライ又同所ニ在

リ

八時三十分 ヨンド方面ニ火災起ル

ヨラテ方面ニ砲銃声ヲ聞ク



一雙ノ友徒汽船ヲライクニ三里及米ノ汽船  
一由ヲ曳キカビテヲ出テ港ノ北方ニ航ス

午後四時十分コラテ地方ニ銃砲声アリ

又米國汽船大形ヲライクニ五隻又ヲ曳キカビテ  
シノ碇泊セル近傍トカビテノ間ニ往復スルヲ  
見ル

二時十三分本艦香港ニ向ケテ碇

二時廿分吳帆船一隻入港カビテニ航スルニ遇テ米  
艦ヲカロックカビテヲ出港ニ向ケテ帆船ニ會  
スルヲ見ル

四時五分カビドルヲ距ルハ三哩北。本艦ノ遠セ  
ントスルハ友徒ノ汽船一隻人員ヲ滿載  
シ入港スルニ遇テ

四時四十分友徒ノ小汽船端艇一隻ヲ曳キカビテ  
スヨリ入港スルニ遇テ

一客月廿四馬尼刺、發洩後三十日迄ハ毎日午後ニ至テ  
新西ノ風アリ波良高カリシガ昨日自以東東方若クハ  
南方北方ノ輕波ノミニシテ波浪起ルコトナカリシ。然レモ  
日ニ多ク少ク驟雨アリ時トシテハ終日太陽ヲ見ルコトナキコト  
モアリシ

一本艦ハ本月十九日午後コラテ港回セヨ午後香港へ入港  
スコラテヨリ香港ニ至ルノ航海ハ晴天ニシテ東若クハ  
東偏南ノ微風アリ海上平穩ナリシト虽モ寒暖計ハ八  
拾四度乃至ハ十、度間ニテノ通風不充分ノ為メ氣力  
ヲ保ツニ困難ヲ感シタルコトアリシ晴雨針ハ二九、九  
三乃至三〇、〇ノ間ヲ行降セリ



シヨコヨヨリノ香港(回航)際便乗ヲ許シタルモノ左ノ如

本人等ノ請求ニ依リ 陸軍歩兵少佐明石元二郎

領事照會依リ 三井物産會社員小林正直

一本艦石炭及罐水積載ノ後未ル廿五日澎湖島ニ向

ケ出港豫定

右報告候也

明治三十一年七月廿二日

秋津洲艦長齋藤守實

海軍大臣侯爵西郷從道殿

應子香港入港 際判現ノ皇禮砲乃英國海鎮司令  
官ニ對スル禮砲ヲ發スル如ク施行セリ當時在泊ノ軍艦ハ  
コシゴロクニツブテマシノ外ヨラクリヤ山(修理中)及コッ  
ドホルニニテ他艦ヲ見エラシムルハ昨日英艦ヲロバシハ全  
速力ニテ昨日就レモヨコヨヨリニ向ケ出港ノ由



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page. The text is written in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page. The text is written in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page.

